

ICT ニュース

針刺しから身を守る

院内感染対策委員会

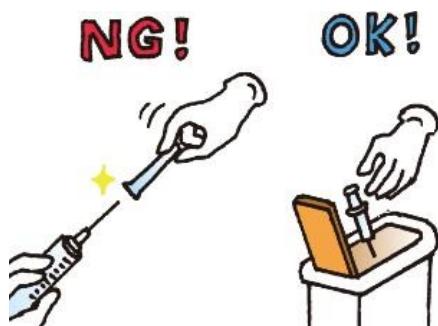
2019年4月

血液・体液曝露から自分の身を守るために、防止策を実施することは、日常業務の中で常に求められます。

針刺しによる感染率は、**B型肝炎ウイルスで30%** **C型肝炎ウイルスで1.8%** **HIVで0.3%**といわれています。

予防ポイント

- ・**リキャップは禁止！ 針捨てBOX持参 直ちに廃棄**
- ・安全装置付き静脈留置針であっても処置の際は必ず針捨てBOXを持参し、使用後は速やかに廃棄することが大切です。
- ・採血時など鋭利物を取り扱う場合には、**必ずニトリル手袋の着用**をします。
手袋を着用することで、針刺しした場合の感染率が下がります！
使用した針は、使用した人が責任を持って針捨て容器に廃棄します。
- ・安全機能が最後まで作動されているか確認しましょう。



再度、手順の確認をしましょう。



必ず持参！！
直ちに廃棄